校長室だより

令和６年度
１２月９日
ＮＯ．３７

自分と向き合い、自分と戦った、マラソン大会！

高学年！力強く駆け抜ける！

中学年！自分の精一杯の力を出し切る

低学年！皆の応援を背に走る

秦梨への通勤中の車外温度計の値は、いつも乙川の橋を渡ると下がり、朝の気温は、もう冬を告げています。とはいえ、山々は黄色く色づき、同楽先生が名付けた「天恵峡」の紅葉もまだまだ見頃で、日に照らされた葉は赤く美しく輝きます。「マラソン大会」というと寒い冬のイメージですが、深秋で初冬の気持ちの良い天気の中、今年の「マラソン大会」は行われました。

マラソン大会本番は、どの子にとっても、たった五分から十分の短い勝負ですが、そこには、いくつもの、そして様々な人間模様が見られます。ゴール付近で、最後の力を振り絞る子、最後までデットヒートを繰り広げる子、練習では手を抜いていたのか本番には強い子、今まで負けていた子に勝てた子、目標の順位やタイム、昨年度の結果にこだわり歯を食いしばる子、家族との約束や応援を胸に走りきる子、体の調子を心配しながら、それでも全力を出す子、そして全力を出し切り、ゴールしてふと表情を緩める子……。走るときは無言であるからこそ、その表情は気持ちを物語り、見ている人に応援する気持ちと元気を与えてくれます。

人は、きついことや辛いことからは逃げたくなるものです。けれどマラソン大会では、みんなが見ていて身体的にも厳しい状況だからこそ、自分自身と向き合うことになります。自分の目標や希望を胸に抱いて、自分の中の辛さや弱さと戦います。そしてそれを乗り越えたところに、子供の成長があります。

今年のマラソン大会でも、子供と一緒に走る保護者の方もみえました。また、交通指導員さんも「昔は才栗橋からスタートした」と懐かしそうに話されました。当然、マラソンはすべての子が好きとは言えません。けれど、いつの時代も自分を成長させてくれるものとして、学区にも根付いているのだと感じました。それぞれの目標に向けて、前に進む秦梨っ子を応援したいと思います。

○保護者の皆様、個別懇談会ありがとうございました。今後も何かありましたらご相談ください。
○昇降口に様々な案内チラシが置いてあります。ご要りようの方は、懇談会など学校にみえたときに、お持ちいただいて結構です。